

令和8年度版 授業チェックリスト



全教科で、1時間の授業のめあてと振り返りを大切に、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しましょう

授業前

- ゴールに到達した子どもの姿をイメージしましたか。**【ねらいと評価の明確化】
 - 単元計画における本時の位置づけの確認と、本時で身に付けさせたい資質・能力の明確化
 - 評価計画の確認(場面、方法、項目)
- 子どもが問いをもち、課題を追究する学びの過程を設定しましたか。**【問題発見・解決能力を育む授業づくり】
 - 多様な子どもの実態をとらえたテーマ、教材、授業展開、発問等の構想
- 授業のねらいに向かって、1単位時間の流れを、時間とともにイメージしましたか。**
【タイムマネジメント】

導入

「なぜ?」「どうして?」「〇〇を知りたい、調べたい」「〇〇ができるようになりたい」



- 子どもたちは、疑問に思うことや知りたいことから自らの問いをもち、自分の言葉で表現できましたか。**【子ども目線のめあての設定】
 - 子どもたちが興味・関心をもつことができる教材(教具等)の提示
 - 地域の教材資源(ひと・もの・こと)の効果的な活用
- 子どもたちはめあてに向かって、1時間の授業の見通しをもつことができましたか。**
 - 本時の学習のめあてと見通しの明示

展開

考えることは楽しい。仲間と一緒に考えることも楽しい。

- 子どもたちは、発問や課題に対して、めあてを意識しながら学習に取り組んでいましたか。**【追究意欲の喚起】
 - 思考をゆさぶる発問
- 子どもたちは、自分の考えをもち、整理することができていましたか。**【考えの構築の支援】
 - 個人で考える時間の確保
- 子どもたちは、目的や視点を意識して話し合う活動に取り組み、自分の考えを表現していましたか。**
 - 他者の思いや考えを聞いて内容を理解し、自分の考えに生かす場面の設定
 - 自分の思いや考えを、場面や相手に応じて適切に語尾まで話す、説明する、書く活動の設定
 - 目的に応じた「一斉・グループ・個人」などの学習形態の工夫
 - 目的や視点を明確にして、ねらいに迫る話し合い活動にするための教師のファシリテート

できた!
わかった!
やってみよう!



終末

1時間の自分の学びを振り返り、次の時間に生かそう。

- 子どもたちは、めあてに沿って振り返り、自分の言葉で表現することで、できるようになったことを自覚していましたか。**【達成感・次時への意欲喚起】
 - 振り返りシートや伝え合いによる1時間の授業の振り返り
(考えたこと、わかったこと、できるようになったこと、もっと知りたいこと、学び方、思考の変容など)

授業後

- 授業前にイメージした子どもの姿にどこまで近づきましたか。**【ねらいに対する評価】
 - 子どもの振り返りや成果物から
 - 評価計画に基づいた教師による評価から
- 次時への見通しと準備**
 - 子どもと教師の評価に基づく家庭学習の設定(本時の学習を定着、本時の学習の発展、タブレットドリル等を活用した基礎学力の定着)
 - 次時の授業や次単元の準備

・「ねらい」と「めあて」は、それぞれ授業者、子どもの立場で使い分けています。
・各市町村や学校によって、重点とする項目を焦点化したり内容を変更したりして、共通理解する際の参考としてもご活用ください。
・学習指導要領が示す資質・能力を具現化した全国学力・学習状況調査の問題を参考に、問い方や課題の出し方を工夫し、教科を問わず、各単元の授業の導入やまとめ、振り返り等に活用しましょう。

単元・題材計画の作成にあたって

◇単元計画、授業実践、学習評価の一体化を図り、資質・能力を育成しましょう。

(学習指導要領第1章総則 第3教育課程の実施と学習評価 2(1)より抜粋)

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、

評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し

指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること

◇年間の指導と評価の計画を確認し、育成する資質・能力を明確にして、単元ごとの指導と評価の計画を作成しましょう。その際、第2期しまねの学力育成推進プランを活用しましょう。

【国語、社会、算数・数学、理科、生活、音楽、図画工作・美術、技術・家庭、体育・保健体育、外国語、総合的な学習の時間・特別活動】

評価の進め方	留意点
<p>1 単元の目標を作成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説を踏まえて作成する。 ● 児童生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。
<p>2 単元の評価規準を作成する</p>	<p>単元の目標及び評価規準の関係性について(イメージ図)</p> <p>学習指導要領 第1編第2章1(2)を参照</p> <p>「内容のまとまりごとの評価規準」</p> <p>学習指導要領解説等を参考に、各学校において授業で育成を目指す資質・能力を明確化</p> <p>「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて作成</p> <p>単元の目標 第3編第1章2を参照</p> <p>単元の評価規準</p> <p>※外国語科及び外国語活動においてはこの限りではない。</p>
<p>3 「指導と評価の計画」を作成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ①②を踏まえ、評価場面や評価方法等(いつ、どのような場面で)を計画する。 ● どのような評価資料(児童生徒の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。
<p>授業を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ③に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童生徒の学習改善や教師の授業改善につなげる。
<p>4 観点ごとに総括する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的评价(A,B,C)を行う。

第2期しまねの学力育成推進プラン

目標1:基礎学力を育成する
授業づくり

目標2:学習習慣の基盤を育む
授業づくり

目標3:幼小中高の学びをつなぐ
授業づくり

目標4:ICTを効果的に活用した
授業づくり

〈一人一台端末の日常的な活用例〉

- ・考えを共有したり比べたりする
- ・考えをまとめ、発表・表現する

目標5:多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくり

〈学習者の視点に立った授業の例〉

- ・ユニバーサルデザインの視点を生かした授業
- ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導

*目標1～3の具体的な内容は「授業チェックリスト」に反映されています。目標4、5については単元・題材計画作成時にイメージしましょう。

参考資料:「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校国語】(R2.3 国立教育政策研究所)

【特別の教科 道徳】

<p>年間指導計画を作成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、内容項目(低学年:19、中学年:20、高学年から中学校:22)について、各学年において全てを取り上げた年間指導計画を作成する。
<p>授業を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒や学級の実態に即し、道徳科の特質に基づく、適切な指導を展開する。(道徳科の特質=道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める学習)
<p>指導による児童生徒の学習状況を把握する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 数値による評価ではなく、児童生徒一人ひとりの成長に着目し、良い点や可能性、進歩の状況を積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で評価を行う。